

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

**JIG-SAW株式会社**

2025年3月24日

# 主軸事業：データコントロールサービス

IoTデータ・Cloudデータ  
ハンドリング（運用・マネジメント・サポート）



生成AI・独自ソフトウェアによる**自動制御**  
超省力化・完全無人化

+

**カーブアウト**（運用部門切り出しモデル）

# データコントロール（分類別）

## • IoT-AI (neqto.ai)データコントロール

- 生成AI機能を実装したデータコントロール基盤でのAIベースデータコントロール
- 多様なハードウェア・機器へ内蔵可能なIoTソフトウェアライセンスとIoTデータコントロール
- Home IoT標準通信規格（Matter）ライセンスおよびオペレーション提供（英国最大手キャリア向け実証実験完了）
- 建設機械分野における自動運転のライセンス提供およびIoTデータコントロール・IoT管理・オペレーション

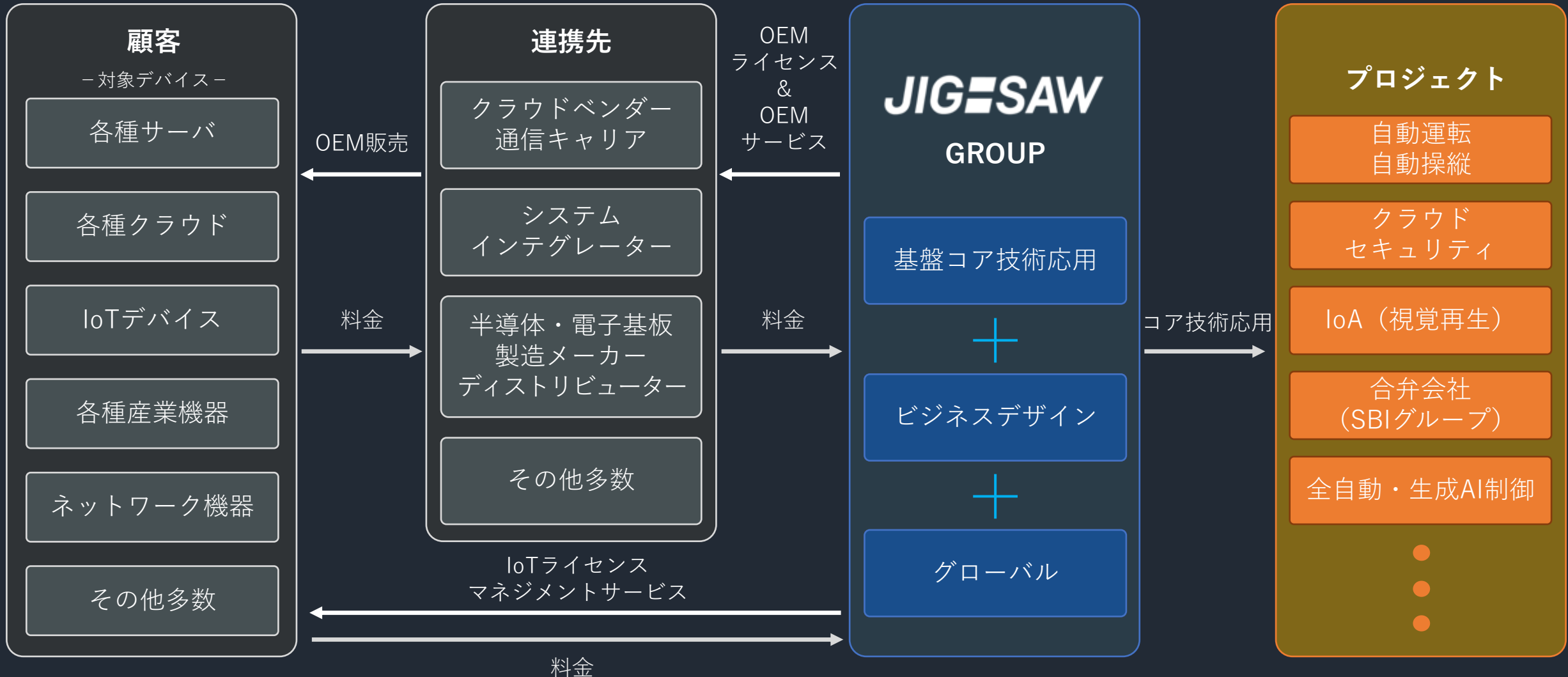
## • クラウド/インダストリー別データコントロール

- ユーザーの運用・サポート部門切り出しモデル（カーブアウト戦略）開始
- 合併事業を軸にした金融業界向けオペレーションサービス（金融業界知識ベースの業界特化サービス）
- クラウドセキュリティSaaSおよびオペレーションサービス

## • グローバルデータコントロール

- 北米・欧州・アジア地域を対象にしたJIG-SAW : TCC (Toronto Control Center)でのデータコントロールサービス提供

# データコントロール事業のビジネスモデル



# 2025年度のJIG-SAW

- 40四半期連続増収と確実な利益、そして継続的な先行投資を実行  
上場以降の過去10年間、40四半期連続で過去最高の月額課金売上のプラス成長（前年同期比較）をしており、既存事業から創出される継続的かつ着実な事業利益を毎年度確保・投資源泉とし、引き続き来るべき壮大なIoT化と生成AI等インターネットにおけるデータコントロール需要の全盛時代に向け、**高い成長への着実な取り組み**とともに、**クラウドセキュリティ・IoT・AIを軸に置いた各種SaaSサービスを一気に投入**してまいります。
- **EXG**↗（Exponential Growth：指数関数的な成長）へ  
当社は、2023年以降をEXG↗（Exponential Growth：指数関数的な成長）期間と位置付け、JIG-SAWとして初の合弁企業、**SBIグループとのSBI JIG-SAWモダナイゼーションズ※**を設立（**2024年1月**）し、現行の既存事業であるデータコントロール事業の領域を**一気に金融業界全般、そしてグローバルに押し上げるとともに、ユーザー部門切り出しモデル（カーブアウト）進出**
- **EXG**↗をより一層高いレベルで実行していくための先行投資と新事業開発  
IoT分野においては、すでに**NTT東日本との業務提携契約**を公表していますが、2024年は海外においても幅広く活動し、**英国最大手通信キャリアとMatterにおける実証実験企業に選定され、当実証も完了し**、当社のIoTコア技術が高く評価されています。また、**米国において生成AIモデルのIoTデータ処理についても、すでにテスト段階での参画企業が70社に上り**、国内のみならず欧米での展開を加速します。また、自動運転ソフトウェアライセンスの商用化／ビジネス拡大等も一気に推し進めて参ります。

# 成長戦略の進捗状況（2024年12月期）

## 具体的な成長戦略

## 進捗状況

ビジネス拡大及びグローバル化  
キー企業との提携・協業

- ・ NVIDIAの組込コンピューティングパートナーであるSeed Studioと業務提携（2024年4月）
- ・ 酒井重工業との共同開発による自動運転ローラの受注開始（2024年10月）
- ・ 米国Bluetooth Gateway大手Cassia NetworksへIoT-OPSサービス提供（2024年6月）
- ・ 東京本社を移転および拡充（2024年12月）
- ・ Lamplight Logisticsと提携（2024年9月）
- ・ システムマネジメント専門オウンドメディア Ops Todayを公開（2024年9月）

ソフト(エンジン)の進行

- ・ SBI JIG-SAWモダナイゼーションズの初年度黒字化、金融クラウド・勘定系システムのインフラ基盤構築・運用支援分野への展開
- ・ スマートホーム管理の課題を解決する新技術を発表（2024年6月）
- ・ 自動操縦標準機開発プロジェクトにフジタ・不動テトラが参画（2024年）
- ・ 画像生成AIの強化に必須な「コンピュータビジョン技術」について日本特許取得（2025年3月）
- ・ IoT技術につき、日・米に続き、中国でも特許取得（2024年7月）
- ・ 英国大手通信キャリアよりMatterにおける実証実験企業に選定（2024年）
- ・ 米国での生成AIモデルのIoTデータ処理について、テスト参画企業が数十社に拡大（2024年）

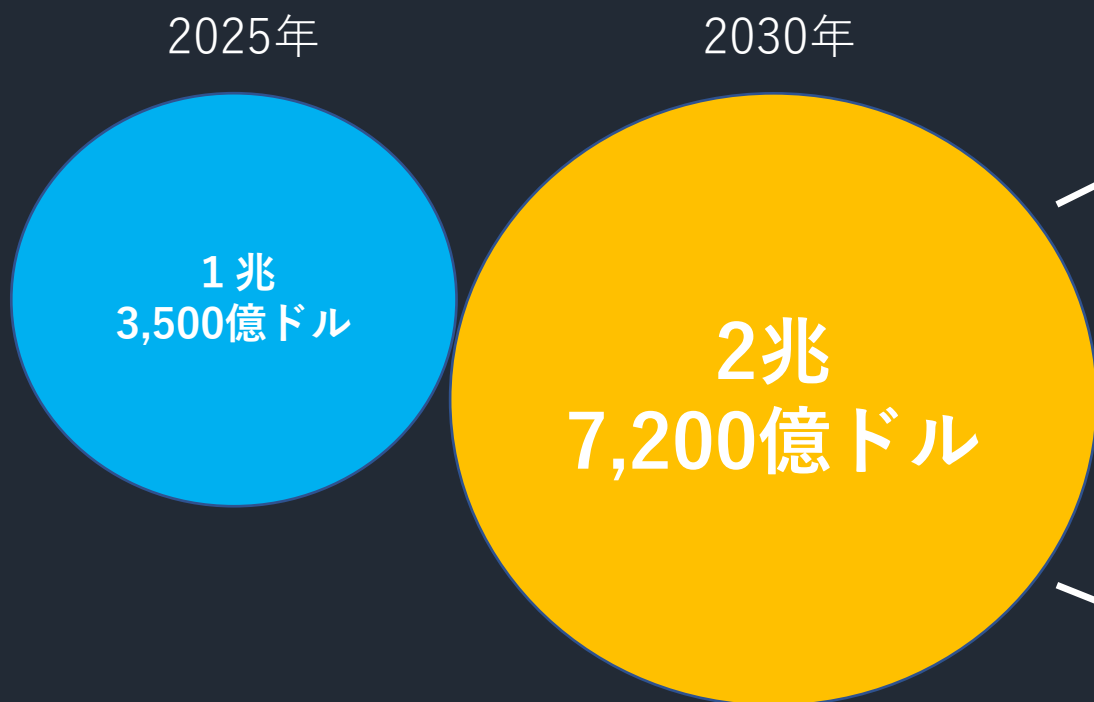
強固な既存事業の  
利益をベースとした  
将来に向けた投資

- ・ 研究開発・販売促進・人的資本投資・グローバル展開のための先行投資を実施  
前年同期と比較し約222,000千円増加

GROWTH

# 当社がターゲットとするマーケット規模

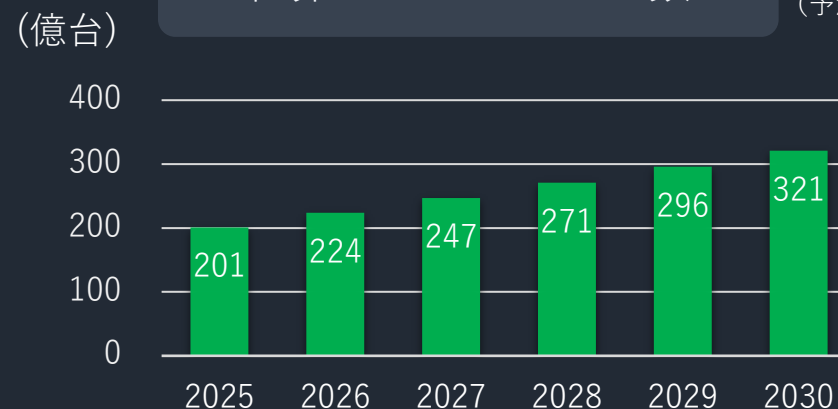
## 世界のIoTマーケット規模予測



※Source: IOT MARKET SIZE & SHARE ANALYSIS - GROWTH TRENDS & FORECASTS (2025 - 2030) by Mordor Intelligence

## 世界のIoTデバイスの数

(予測値)



※Source: Number of Internet of Things (IoT) connections worldwide from 2022 to 2023, with forecasts from 2024 to 2033 by Statista

## 世界のデジタルデータ量

(予測値)



※Source: Volume of data/information created, captured, copied, and consumed worldwide from 2010 to 2023, with forecasts from 2024 to 2028 by Statista



# 当社がターゲットとするマーケット規模

## IoT-AIデータコントロール

IoTの世界市場・・・2028年までに2兆600億ドル（予測）

※グローバルインフォメーション 「IoTの市場規模とシェア分析- 成長動向と予測（2023年～2028年）より

半導体の世界市場・・・2030年までに1兆ドル（予測）

※SEMIジャパン 2023年12月12日 プレス向け説明会より

エッジコンピューティングの世界市場・・・2030年までに328億ドル（予測）

※Report Oceanのレポートより

世界のMCU市場規模・・・2030年までに572億5,000万ドル（予測）

※Global Microcontroller (MCU) - Market Share Analysis,  
Industry Trends & Statistics, Growth Forecasts (2025 - 2030)

世界のIoTマイクロコントローラ（MCU）市場規模・・・2032年までに163億9,000万米ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

世界のIoTデバイスの数・・・2028年までに271億台（予測）

※Number of Internet of Things (IoT) connections worldwide from 2022 to 2023,  
with forecasts from 2024 to 2033 by Statista

世界のデジタルデータ量・・・2028年までに394ゼタバイト（予測）

※Volume of data/information created, captured, copied, and consumed worldwide  
from 2010 to 2023, with forecasts from 2024 to 2028 by Statista

5Gインフラストラクチャの世界市場・・・2032年までに5,901億8,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

画像認識市場の世界市場・・・2032年までに1,781億3,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

ドローンサービス市場の世界市場・・・2032年までに2,138億7,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

IPカメラ市場の世界市場・・・2032年までに160億ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

AI（人工知能）の世界市場・・・2030年までに8,260億ドル（予測）

※Artificial intelligence (AI) market size worldwide from 2020 to 2030

# 当社がターゲットとするマーケット規模

## マネージドサービス・セキュリティ

世界のマネージドサービス市場規模・・・2032年までに8,787億1,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

世界のクラウドシステムマネジメント市場規模・・・2032年までに1,396億ドル（予測）

※Cloud System Management Market Size, Share & Segmentation

By Component, By Organization Size, By Deployment Models,

By Vertical, By Region, and Global Forecast 2024-2032 by SNS Insider Pvt Ltd

検査、修理、メンテナンスの世界市場・・・2029年までに724億6,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

予知保全システムの世界市場・・・2036年までに2,084億ドル（予測）

※予知保全市場調査レポート — 世界予測 2024–2036年（SDKI）より

設備保全管理ソフトウェアの世界市場・・・2033年までに721億6,840万ドル（予測）

※Facility Management Software Market Insights – Growth & Forecast 2023-2033

by Future Market Insights

サイバーセキュリティの世界市場・・・2032年までに5,627億2,000万ドル（予測）

※Fortune Business Insightsのレポートより

世界のデータセンター市場規模・・・2032年までに4,646億1,000万ドル（予測）

※データセンター市場の規模、シェア、トレンド分析レポート（Straits Research）より

世界のデータ分析市場規模・・・2034年までに6,586億4,000万ドル（予測）

※Data Analytics Market Size, Share, and Trends 2024 to 2034 by Precedence RESEARCH

# GROWTH：売上拡大（2025～）

## 1. データコントロール事業拡大

- 既存取引拡大（完全ストック型ビジネス）  
AI基盤等への投資によるインターネット・インフラ基盤は拡大の一途  
AWS・Google Cloud・Azureをはじめとするパブリッククラウドマーケットの一層の拡大
- 新マーケット獲得・拡大  
顧客運用部門の切り出しモデル（カーブアウト）開始  
合併会社：地銀等を軸とした金融セクター案件、欧州・アジア案件、北米データコントロールセンター業務拡大予定
- 主要クラウドサービス管理取扱額拡大に伴う業容拡大  
引き続き約40%（2024年度実績）の増加

## 2. グローバルIoTデータコントロールサービス拡大

- IoTライセンス（完全ストック型ビジネス）  
組込IoTソフトウェア（NEQTO／日・米・中・台湾で特許取得済）を多種多様な機器・設備にライセンス提供
- IoTデータAIコントロールサービス  
生成AI制御によるIoT機器・設備のリモート自動監視・自動制御・自動復旧・自動更新需要の取り込み（neqto.ai）

## 3. 自動運転&IoTデータコントロールビジネス

- IoTと自動運転ソフトウェアの統合モデル  
ソフトウェアライセンスおよびIoTエンジン（NEQTO）+データコントロールの統合サービス

GROWTH:営業収益拡大

## Auto Sensing & Auto Control

生成AI処理・ソフトウェア化・無人化による**営業利益率大幅向上へ**

### 統合型自動制御プラットフォームと生成AI制御部門

- 統合型自動制御独自プラットフォームローンチ
- 生成AIモデル開発による業務処理とサービス化
  - 従来組織・ルーティン業務消滅
  - 自動処理・生成AI処理・無人化ソフトウェア群の平行開発
  - サービス業務だけではなく、マーケ・セールス・請求や見積もり・提案までを制御

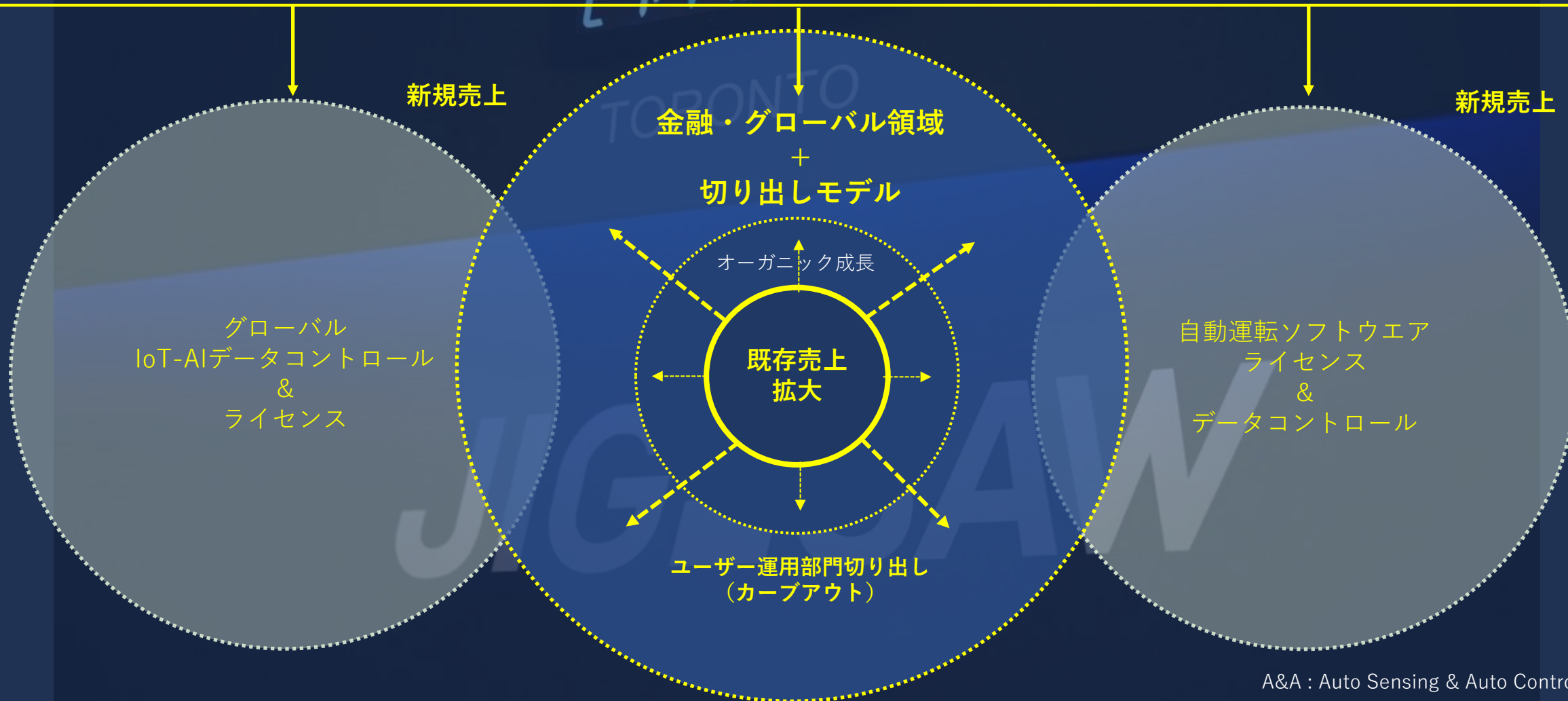
※2024年3月21日に開示しました「事業計画及び成長可能性に関する事項」に記載の「営業利益率を2028年までに40%超へ」の目標につきましては、生成AI機能実装やカーブアウト戦略による新規サービス確立などにおける事業拡大や先行投資に関する不確定な要素が多いことから、目標を取り下げております。

既存事業ターゲット

# 保有コア技術の応用 & ビジネス化

## JIG-SAWの独自テクノロジー

OS開発技術・通信制御技術・自動運転技術・データコントロール自動制御技術 (A&A)・生成AI制御・膨大なナレッジ



# これからのJIG-SAW

- **既存事業：年率二桁パーセント以上増収**

壮大なAI需要が創出されておりマーケットはより一層拡大  
金融セクター・グローバルマーケットを軸に加速  
カーブアウト（切り出し）向けのサービスモデル創出  
※（業績条件付株式報酬制度（PSU）業績条件クリアに向けて加速）

- **より超高収益なモデルへ進化**

自動化・生成AI制御化による収益率大幅向上

- **スケールビジネスの拡大**

グローバルIoTビジネス（ライセンスモデルと生成AI制御を軸にしたIoTデータコントロールモデル：neqto.ai）によるビジネス獲得

- **自動運転+IoTデータコントロール統合サービス開始**

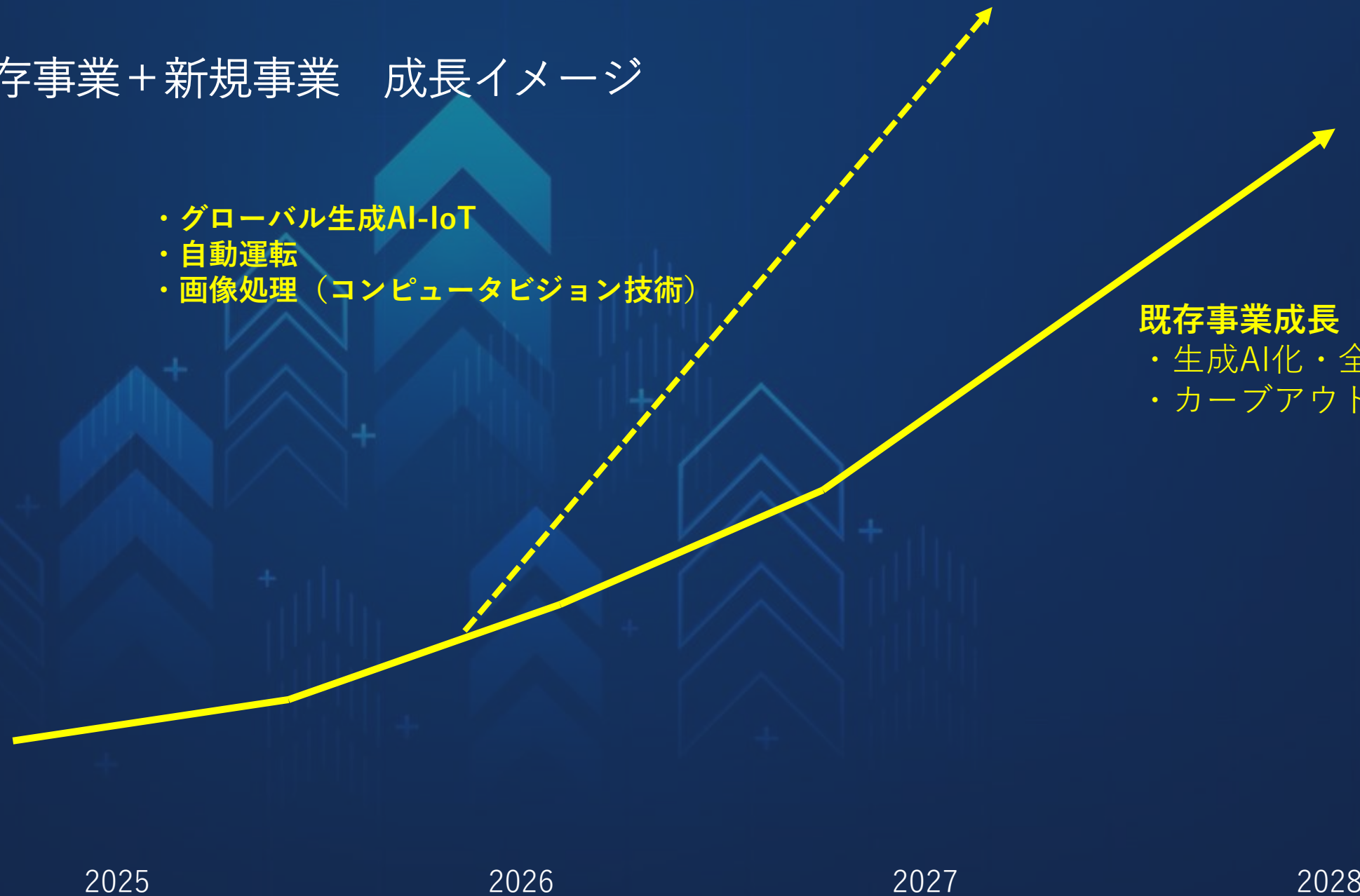
世界初の取り組みを通じた自動運転+IoTパッケージの展開

# 既存事業 + 新規事業 成長イメージ

- ・グローバル生成AI-IoT
- ・自動運転
- ・画像処理（コンピュータビジョン技術）

## 既存事業成長

- ・生成AI化・全自動無人化
- ・カーブアウトモデル





# 引き続き高成長への先行投資継続

- **neqto.ai：大量IoTデータ処理の自動制御**

- 戦略的生成AI制御部隊の大幅増強
- 膨大なIoTデータハンドリング統合型自動制御システム：Orchestraローンチ
- 当社独自の、IoT系Rag、機械学習、neqto.aiへの投資継続

- **IoTデータコントロール拠点設置に向けた大型投資**

- グローバル拠点設置と海外オペレーションの体制強化と投資

- **IoTエンジン研究開発およびハードウェアバンドル・ライセンスビジネス開発投資**

- IoTソフトウェア「NEQTO」内蔵ハードウェア活用によるIoTライセンス&データコントロール

- **セキュリティSaaSモデルの研究開発投資**

- より一層の機能追加と追加開発

- **自動運転への研究開発投資**

- 2024年度にソフトウェア搭載建機の商用化（実証実験にはほぼ全ての主要ゼネコンが参画）
- 他社製建機協調システムとの接続実験・建設発生土受入地整備工での自動化自律化運転の実証施工
- 自動・自律化高度な遠隔操縦支援システムの開発と検証・エンドユーザのオペレーションによる実証本施工

- **再生医療分野へ継続的な研究開発投資**

- 米国でのプロジェクト開始へ

# 自動運転プロジェクト：2025年発売・サービス開始に向けて

## 参画企業群

2020年2月 株式会社大林組

2020年6月 株式会社安藤・間

2020年6月 大成建設株式会社

2021年1月 株式会社熊谷組

2022年6月 清水建設株式会社

2024年10月 株式会社フジタ

2025年 1月 株式会社不動テトラ

2020年2月

大林組 5Gネットワーク配下における他の遠隔制御建機との連携

2020年8～9月

大成建設 独自の協調システムへ接続し、他の建機との協調制御

2021年2～3月

大林組 5G配下での他遠隔制御建機との連携による実施工の効率化検証

2021年9月

熊谷組 自律走行性能の精度検証

2022年12月

A社 A社独自の協調システムとの接続実験

2023年9月

国土交通省 自動施工機械・要素技術サブワーキンググループ 建設機械施工の自動化・遠隔化技術に係る現場検証

2023年11～12月

大林組 建設発生土受入地整備工での自動化自律化運転の実証施工

2024年1月

安藤ハザマ 酒井重工業実験フィールドでの安藤ハザマ製協調システムとの接続実験

2024年12月

酒井重工業・土木研究所【共同研究】 自動・自律化高度な遠隔操縦支援システムの開発と検証

# IoE(internet of Everything)/IoA(Internet of Abilities)

## IoE・IoA

当社技術の応用範囲：

あらゆる物質、細胞までカバーするIoE (Everything)と人間の能力自体を拡張させるIoA (Abilities) までを視野に入れています  
JIG-SAWが取り組む「NEW VISION」は、まさにIoA (ヒューマンオーグメンテーション) の取り組みの一つです

## 人間の五感拡張へ

「NEW VISION」は、人間の視覚（知覚）をソフトウェアによって拡張することを念頭におくプロジェクトです  
テクノロジーと人間の実質統合により、いわゆる人間の五感（視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚）の拡張を目指すものです

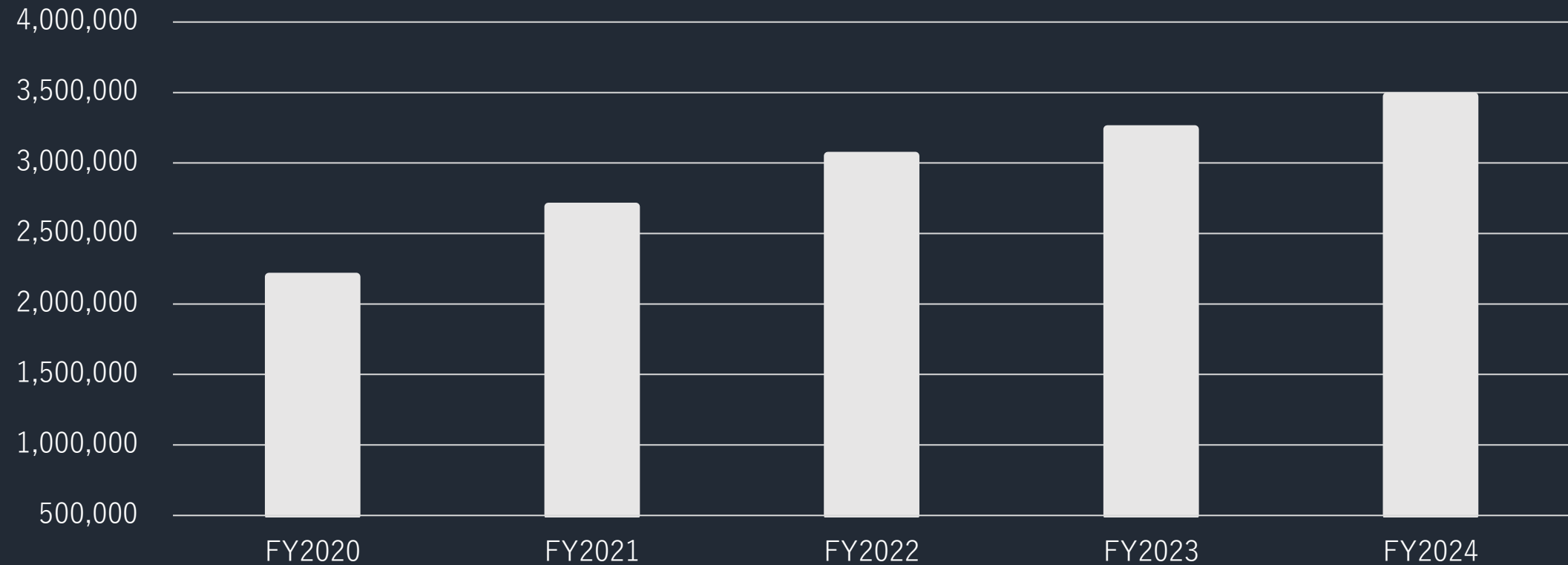
## 視覚再生 「NEW VISION」

- ソフトウェア技術で人間の**視覚能力（知覚）の拡張**を実現  
日本、米国、欧州5か国、中国、香港及び台湾においてソフトウェア+グラス**特許登録完了**
- 臨床段階の取り組みに向け引き続き独自アルゴリズムの研究開発を大学研究室と共同で継続中  
欧米にてプロジェクト化予定

# 売上高推移

システムマネジメントサービスが売上高を牽引し、  
**極めて堅調な成長を実現**

(単位：千円)

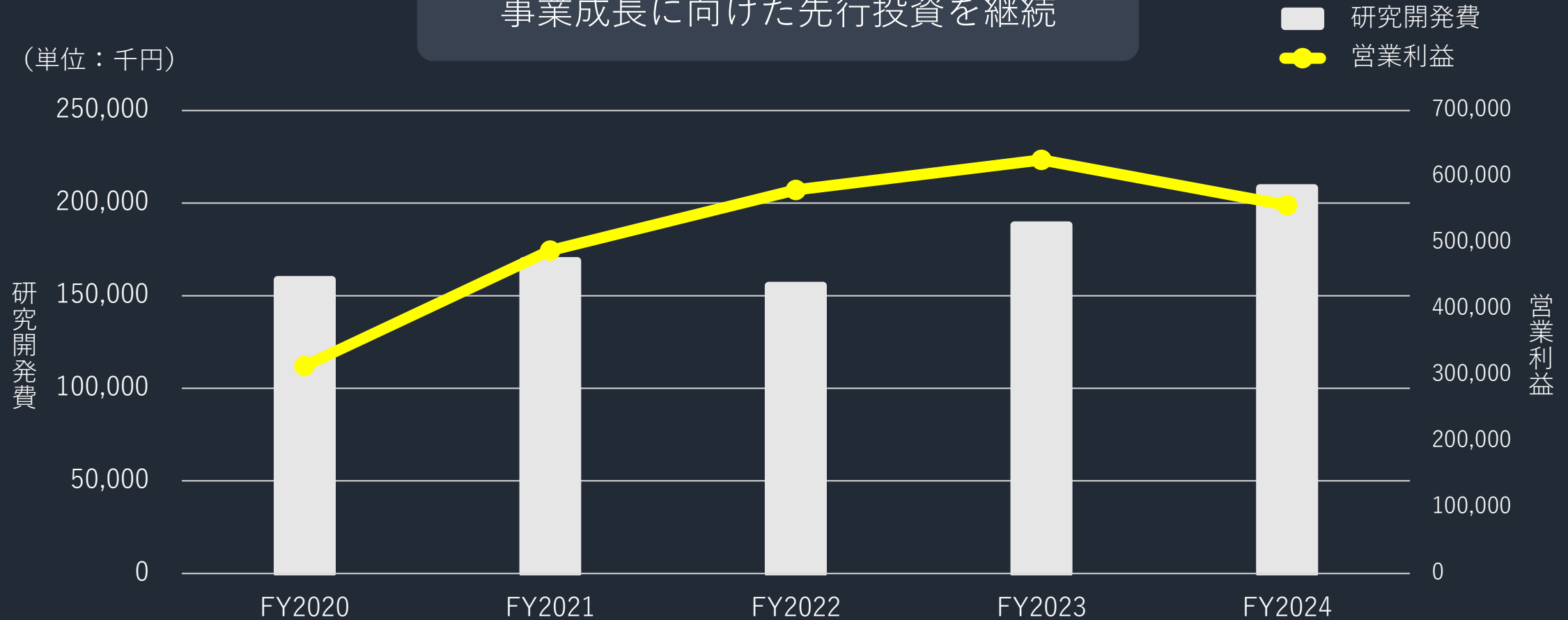


上場以来**40四半期連続**で**過去最高**の月額課金売上の**プラス成長**

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年度から適用しており、2021年12月期の売上高については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

# 研究開発費・営業利益推移

事業成長に向けた先行投資を継続

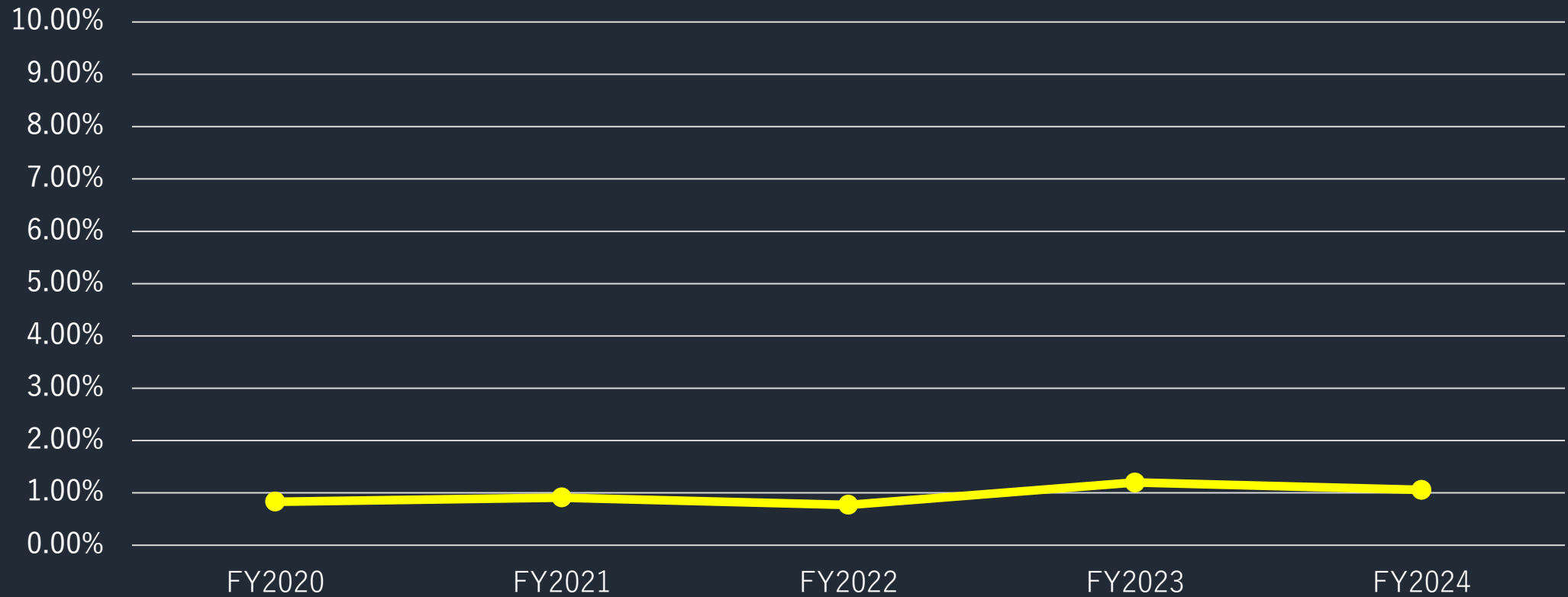


研究開発・販売促進・人的資本投資・グローバル展開のための先行投資に加え、東京本社の移転・統合を行いながらも **営業利益は堅調に推移**

※研究開発は主にNEQTO、自動運転、再生医療分野など

# 解約率推移

解約率は**低水準を維持**



※解約率：既存契約金額に占める解約に伴い減少した金額の割合

# 2025 経営方針・具体的な成長戦略

## 経営方針

世界の隅々までつながるデジタルユニバース時代の  
中心の1社に位置する

## 具体的な 成長戦略



データコントロール事業  
の拡大・グローバル化  
P2-3, 5, 11-12, 15-17



グローバルのキー企業  
との提携・協業  
P2-3, 5, 11, 19



ソフト（エンジン）が  
ハードのビジネスをリード  
OEMサービス  
P2-3, 5, 15, 18-19



将来に向けた投資を継続  
（前年度以上）  
P3, 5, 17, 19

# 主要リスクへの対策

## 市場動向 について

### リスク

当社データコントロール事業は、インターネットサービスやインターネットとつながる全てのモノが快適かつ安定稼動するため、全てのモノを繋ぎ、制御・運用・管理（コントロール）していくために、自動検知&自動制御（A&A）をコアコンセプトとしたサービスを主力としております。当社グループのターゲットとするIoT市場及び生成AI市場は、今後もさらなる拡大が予測されております。しかしながら、今後、市場拡大ペースの急速な鈍化等予期せぬ要因により、顧客企業におけるシステム保守運用の外部委託の縮小や内製化若しくはニーズの変化等、発展途上段階にある市場の成長が阻害される場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。（発生可能性：低 / 発生時期：中長期 / 影響度：大）

### 対策

当社グループは、今後も市場の成長傾向は継続すると見込んでおりますが、引き続き国内外の市場動向や経済情勢をモニタリングするとともに、上記のような要素の変化を捉え、市場・経済情勢に応じた適時適切な経営判断に基づく柔軟な対応により、当該リスクの低減に努めております。

## 不測の災害・ 事故・重大な 感染症の拡大 及びシステム トラブル等 について

### リスク

当社グループの事業は、停電、ネットワークの故障・障害等の影響を受けやすく、当社のネットワークインフラについては、地震の影響を受けにくい札幌を中心に整備しておりますが、インターネット接続環境の安定した稼働並びにIoT関連資材の安定供給が当社グループ事業の大前提であると認識しております。そのため、予期せぬ自然災害や事故、紛争、伝染病や感染症の流行等、ソフトウェアの不具合、ネットワーク経由の不正アクセスやコンピュータウィルスの感染、停電・電力不足、半導体資材や電子部品の調達不足・遅延など、様々な問題が発生した場合には、サービスの安定的な提供が困難となり、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。（発生可能性：中 / 発生時期：不明 / 影響度：大）

### 対策

当社グループは、上記のような自然災害、事故、システムやネットワークのトラブル等に備え、常時データバックアップやセキュリティ強化、調達先の多様化、対策マニュアルや事業継続計画（BCP）の整備・運用、海外拠点を含む多拠点からの安定性の高い充実したサービスの提供ができる体制を構築するなど、当該リスクの低減に努めております。また、重大な伝染病・感染症の流行に備え、複数拠点への人員の分散や疾病対策の周知・徹底・運用などにより、当該リスクの低減に努めております。

その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。



## その他用語集

用語	説明
OPS	サーバ・クラウド運用のみならず、あらゆるデバイスや機器を対象とする当社マネージドサービス（Operation Service）
OEM	「Original Equipment Manufacturing」の略称で、製造メーカーが他社ブランドの製品を製造すること
SaaS	「Software as a Service」の略称で、「サービスとしてのソフトウェア」を意味する
生成AI	コンピュータプログラムが大量のデータを学習し、新しいコンテンツを自動で生成する技術
Rag	「Retrieval Augmented Generation」の略称で、自社に蓄積された大量の業務文書・規定などの社内情報、外部の最新情報を活用する手段として、信頼できるデータを検索して情報を抽出し、それに基づいて生成AIの知能にあたる大規模言語モデル（LLM）に回答させる方法のこと
カーブアウト	ユーザー顧客のノンコア事業（運用事業）の当社への切り出し

**Change the Game**  
&  
**Change the World**

# 本資料の取り扱いについて

本発表に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来の実際の業績や財務状況は、予測とは大きく異なる可能性があります。

本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。個別契約やビジネス等に関する情報につきましても、秘密保持契約等に基づき原則非開示となりますが、開示が可能となった段階で適時適切にニュースリリースおよび適時開示を行ってまいります。IR取材や決算説明会等におきましても、上記と全く同様の対応をしております。

本資料の更新は、本決算の発表以降、3月末までに開示を行う予定です。